

「JAバンク茨城子ども食堂応援助成2024」活動報告書

活動名	困難を抱えた子どもたちの継続的な支援と防災リスクに備える力をみにつける
団体名	任意団体 amiseed
この活動で取り組んだ地域の課題や背景(※)	ひとり親家庭・多子家庭・支援を必要とする世帯には、その日の食事に困るという状況にあるケースが多いことを実感しています。そのため、緊急時の食の支援として、地域の中でのフードドライブの仕組みづくりと継続は必要不可欠であると考えます。また、コロナ禍以降、子どもたちにとっては、地域や家族以外の大人とのつながりを持つ機会が減っています。最近では地震等の自然災害も多いことからもしものときに備えて普段から防災について考える機会を地域で持つことは、子どもにとっても有益であると考えます。
この活動の目的(※)	フードドライブの取り組みの安定した継続と、支援を必要とする世帯とその子供が地域とのつながりを持ち、もしもの時に備えて考える機会を持つことを目的とします。
活動の対象(※)	ひとり親家庭の子どもたち・多子家庭・生活困窮家庭の子どもたちを主に対象
実施内容	<p>6月21日 「子ども防災フェスティバル」 * 阿見町防災危機管理課協働事業として始めて開催 この日の為に、横浜で子ども防災士初級を取得 148名の子どもたちが参加しました。</p> <p>11月17日 茨城県防災危機管理課から水・防災食などが配られ、阿見町・美浦・稲敷エリアの子ども食堂・フードパントリー団体のトラックをレンタカーし引き取りに行けました。</p> <p>12月7日 「フードドライブ報告会」 * 24名参加</p>
活動実施後の成果	<p>子ども防災に関しては成果が大きかった。実際に防災訓練を行い、消防署も協力。消防車も会場に現れ子どもたちは興奮しました。茨城大学の学生たちや高校生たちも子どもたちとワークショップ、防災ポーチを実際に展示したりしました。</p> <p>炊き出しも行い、地域全体で防災の意識を身につけられました。</p> <p>フードドライブの報告会や広報誌を作ったことで、地域に広がりを見せました。広報誌を作成したことにより、様々な活動をしていることを知ってもらい、共感してもらえました。</p>

※ 申請書から転記いただいて構いません。

「JAバンク茨城子ども食堂応援助成」活動報告書

今後の展望 や新たに 見えてきた 地域課題	継続的に、「こども防災」は、フェスティバルとして阿見町と協働に進めて行こうと思 いました。実際に開催したことにより、災害があった時の対応や必要なもの、72 時間 は、備蓄した防災グッズで持ちこなすなどの必要性があることを知ってもらいました。
子ども食堂 応援定期貯金預 金者への一言 (※)	いつもありがとうございます。こども食堂への理解・支援は茨城で活動する子ども食堂 の意欲を強くするものです。応援してくれる人たちがいるからこそ、活動を続けていけ る。だからこそ、こどもたちに選ばれる「こども食堂」であることを忘れずいたいと思 います。
自己評価 (いずれかに ○を記入)	<input checked="" type="radio"/> A. 目標を超える成果を得ることができた <input type="radio"/> B. ほぼ目標どおりの結果となった <input type="radio"/> C. 残念ながら目標を達成できなかった <input type="radio"/> D. その他 ()
自己評価で C を記入された 場合、その理由	

※ 欄の大きさは自由に変えていただいても結構ですが、全体で 2 ページ以内となるようご配慮ください。

※ 活動の様子がわかる写真数枚のデータを別途ご送付ください。

※ その他必要に応じて補足書類をご提出ください。